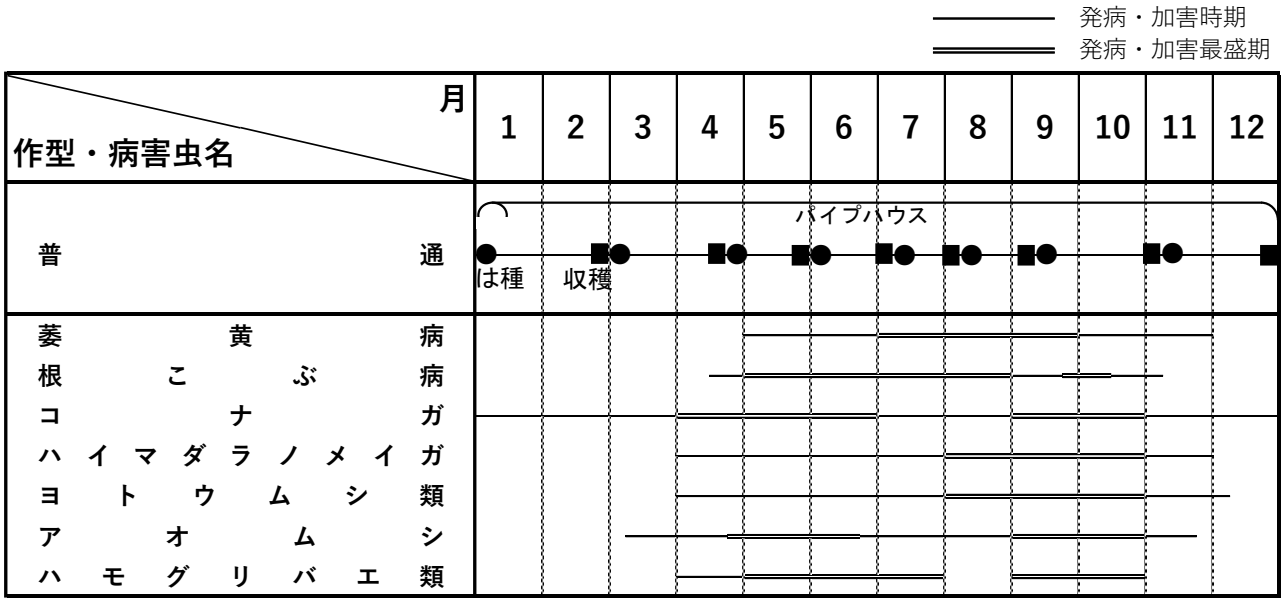
しろな（非結球はくさい）

農薬取締法上、「しろな」の作物名は「非結球はくさい」である。
「非結球はくさい」には、「非結球はくさい」「非結球あぶらな科葉菜類」「葉菜類」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。（非結球あぶらな科葉菜類の項　参照）



萎黄病

留意事項

1 病原菌は根に侵入し、道管に沿って下から移動するため、葉の黄化も下から進行する。
2 株元を切断すると、維管束が変色していることがある。
3 根傷みによって発生が助長される。

防除方法

1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
2 排水を良好にする。
3 下記の薬剤で土壌消毒を行う。（Ｘ土壌消毒　参照）
・バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤 劇 ＜－＞
【20～30kg／10a　所定量を均一に散布して土壌と混和
は種又は定植14日前／1回】
4 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

根こぶ病

留意事項

1 降雨が続く秋期に発生しやすい。
2 気温が高く、日長時間が長い時に発生しやすい。

3 酸性土壌で排水不良のほ場に発生が多い。

防除方法

1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
2 排水を良好にする。
3 石灰質資材を施用し、土壌酸度を矯正する。
4 下記の薬剤で土壌消毒を行う。（Ｘ Ⅲ 土壌消毒　参照）
・バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤 劇 ＜－＞
【20～30kg／10a　所定量を均一に散布して土壌と混和
は種または定植14日前／1回】
5 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

コナガ

留意事項

1 葉裏に網のようなまゆをつくってサナギになる。
2 春～初夏、秋の発生が多い。
3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・プレバソンフロアブル5 ＜２８＞【2000倍　前日／2回】
・コテツフロアブル 劇 ＜１３＞【2000倍　14日／2回】
・スピノエース顆粒水和剤 ＜５＞【5000倍　3日／2回】
・ＢＴ剤 ＜１１Ａ＞（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイ）

留意事項

1 夏期が高温少雨で、残暑のきびしい年に多発しやすい。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・スピノエース顆粒水和剤 ＜５＞【5000倍　3日／2回】

ヨトウムシ類

留意事項

1 夏～秋期に高温乾燥する年に大発生する傾向がある。
2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 育苗期～定植当日に下記の薬剤を施用する。
・プレバソンフロアブル5 ＜２８＞
【ハスモンヨトウ　100倍　かん注（セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L）当たり0.5L）育苗期後半～定植当日／1回】
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・スピノエース顆粒水和剤 ＜５＞【5000倍　3日／2回】
・ＢＴ剤 ＜１１Ａ＞（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

アオムシ

留意事項

1 幼虫による被害は春と秋に多い。
2 若齢幼虫の防除に重点を置く。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・アディオン乳剤 ＜３Ａ＞【2000～4000倍　前日／3回】
・コテツフロアブル 劇 ＜１３＞【2000倍　14日／2回】
・スピノエース顆粒水和剤 ＜５＞【5000倍　3日／2回】
・ＢＴ剤 ＜１１Ａ＞（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

ハモグリバエ類

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・スピノエース顆粒水和剤 ＜５＞【5000倍　3日／2回】